

医師の技術料への工夫

— 少ない原資のなかでの
山形大学医学部附属病院の工夫と限界 —

山形大学 医学部長
中央社会保険医療協議会 委員
嘉山 孝正



徹底した情報開示

1996年（13年前）
の医療事故

2001年：
内部調査により
隠蔽発覚 公表

2002年：
プレイム・フリー・
システム導入



明細書を全患者に無料で発行
(2009年4月、大学病院で全国初)

情報開示へ新明細書 レセプトと同内容 全患者に無料発行

山形大医学部は4日、付属病院のすべての患者に対して4月から、診療内容と費用の詳細が分かる明細書を無料で発行すると発表した。全患者への無料発行は、全国でも先進的な取り組みで、大学病院では初めてという。

4月から山形大医学部

新たに発行するのは、レセプト(診療報酬明細書)と同じ内容。現在は「入院料」「検査」「投薬」といった区分ごとの料金表示だが、「心マッサージ1時間」「超音波」など、具体的な内訳が加わる。どのような処置を受け、それぞれいくらの料金

が掛かっているかが分かるようになる。患者本人の同意がない場合は、従来の明細書を出す。

医学部によると、多くの病院では、患者が希望した場合、レセプトと同様の明細書を発行しており、有料のケースもあるという。山大医学部では、これまで患者からの希望がなかったが、情報開示を推進する一環として発行を決めた。嘉山孝正医学部長は「医療に対する不安や不信を取り除くには、知ってもらうことが一番だ。過重労働が指摘される医師の労働内容が、明らかになる効果もある。取り組みが全国に広がるよう期待したい」としている。



「医療ミス隠蔽問題」を記者会見で公表し謝罪する山形大学附属病院院長(当時、右から2人目)ら=2002年2月28日、東京

【この連載へのご意見、ご感想をお寄せください】
〒980-8572 山形県山形市山形1-1-1
ファクス023(641)1306、Eメールはiryoo@yamagat-u.ac.jp

『山形新聞』平成18年3月30日
(記者会見の写真は平成14年)



技術料および時間外手当の原資

財源

管理当直手当の減額
(2万 1万円)で捻出した金銭

大学の運営費交付金



[従来の管理当直]

診療科ごとに
17科(17人)
@20,000円



診療科ごとに
業務量・リスクが
大きく違うため
見直し!

[2005年12月から]

1フロアに1人
(9人体制)
@10,000円

時間外手当の概要（1）

時間外手当（緊急時診療従事調整手当）

救急部からの要請により救急対応を行った医師等及び
救急対応を行った医師等に1回5,000円を支給

(2006年7月適用)